

首都移転問題関連日誌（11月～12月）

11 月

2 日 首都移転反対ラッピングバス出発式を開催

8 日 首都移転に反対を共同表明 ― 7 都県市首脳会議 ―

14 日 首都移転についての世論調査結果を公表 ― 都民の66%が必要ないと回答 ―

14 日 参議院国会等の移転に関する特別委員会で、三重・畿央地域の各県知事らが意見陳述

15 日 石原知事が小泉首相に予算編成に対する要望 ― 移転の白紙撤回を訴える ―

参議院の特別委員会で、岐阜・愛知地域及び栃木・福島地域の各県知事らが意見陳述

自民党の首都機能移転調査会が5年ぶりに開催

21 日 衆議院国会等の移転に関する特別委員会で、石原知事が意見陳述

28 日 衆議院の特別委員会で、岐阜・愛知地域及び栃木・福島地域の各県知事らが意見陳述

12 月

1 日 広報東京都12月号で、首都移転の問題点を都民に強く訴える

4 日 東京都議会が首都移転の白紙撤回を求める決議を採択

衆議院の特別委員会で、三重・畿央地域の各県知事らが意見陳述

12 日 パネル展「断固反対！首都移転」を開催（12月25日まで）

25 日 東京都町会連合会が衆議院議長に首都移転反対を陳情（一面参照）

編集・発行 **首都移転に断固反対する会**
〒163-8001 新宿区西新宿 2-8-1 東京都知事本部内
T E L 03-5388-2172
F A X 03-5388-1212
Eメール：chijihonbu_syuto@section.metro.tokyo.jp
首都移転問題のホームページ
<http://www.chijihonbu.metro.tokyo.jp/chosa/syuto/>

首都移転に NO!

～いま止めなければ、日本が危ない～

首都移転に断固反対する会

Vol. 8

平成14年1月発行

今年が山場！首都移転問題

～移転の白紙撤回へ向けて、勝負の年スタート！～



完成間近の新首相官邸

新年明けましておめでとうございます。

去年は、首都移転に反対する様々な取り組みに多大なるご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて今年、首都移転問題は大きな山場を向かえます。

衆議院の特別委員会は平成12年5月、「今後2年を目途に、移転先候補地を1つに絞り込む」との決議を行いました。その期限である5月が目前に迫ってきております。これに向け、国会や候補地の動きも今まで

以上に活発になることが予想されます。

また一方では、首都移転と全く矛盾する、首相官邸や中央省庁の建て替えも進められており、首都移転問題は全く予断を許さない状況といえます。

このような中、本会としても、東京都や区市町村と協力して、首都移転の白紙撤回にむけた取り組みをこれまで以上に強めていく必要があると考えております。

今後とも、会員の皆様のより一層のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

東京都町会連合会が衆議院議長に陳情書を提出！

平成13年12月25日午後、東京都町会連合会の石川誠一会長ほか都内町会・自治会長代表約30名が綿貫民輔衆議院議長の公邸を訪れ、2,908名の町会・自治会長が署名した「国会等の移転に反対する陳情書」を会長から議長に手渡し、首都移転問題の白紙撤回を陳情しました。

陳情書を受け取った綿貫議長は、「小泉内閣では都市再生が話題となっている。衆議院では、国会等の移転問題にもからむが、長年の課題であった議員会館の建て替えをPFIで行うこととした。皆さんの陳情の趣旨を重く受け止める。」と挨拶しました。



陳情書を手渡す石川会長（左）

～私も首都移転に反対します～

首都移転問題については、多くの有識者の方々も反対の考えを表明しています。
今回は、危機管理の第一人者である、元内閣安全保障室長の佐々淳行さんにご意見をいただきました。

危機管理の視点からも移転撤回を 元内閣安全保障室長 佐々 淳行

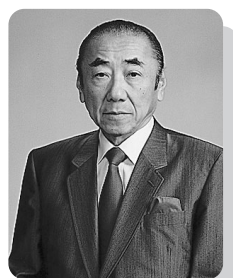
(略歴)

昭和 5年 東京都生まれ

昭和29年 東京大学法学部卒 警察庁入庁

昭和61年 初代の内閣安全保障室長

平成11年～首都移転問題に関する東京都専門委員



昨年9月の米国中枢同時テロの際、偶然にもワシントンに滞在していた私は、米国の受けた衝撃の大きさを目の当たりにすると同時に、日本が抱える危機管理能力のあまりの貧弱さをも改めて実感した。

世界のグローバル化が急速に進む中、日本は早急に危機管理体制を整備する必要があり、平成2年の国会決議から12年目を向かえた首都移転問題も、こうした危機管理の視点から見直すべき時期にある。

1 危機管理から生じた移転問題

そもそも首都移転問題は、20年以上も前に、大地震で東京が危ないというので「東京からそう遠くない場所に、危機管理のための施設を建設しよう」という話から始まった。

欧米では、例えば米国には、コロラドスプリングスの山を掘り抜いて半永久的な非常事態の指揮所がある。ドイツにも、ボンの西15キロぐらいのマリエントールに、非常時用の司令部である地下施設がある。「日本にもそうした施設をつくろう」というのが発端だったが、いつのまにか三権全てを、しかも東京から遙か遠くに移そうという遷都の話にすり替わってしまった。

候補地の不動産への先行投資という意味合いが強くなり、政治屋が「遷都」で利権をむさばる苦々しい構図がそこにある。

2 矛盾だらけの首都移転

現在国は、一方で移転移転と言いながら、中央省庁の建て替えを精力的に進めている。防衛庁は昨年市ヶ谷に新築移転した。本年4月には小泉総理も新官邸に引っ越すという。議員宿舎の建て替えも決定している。こんなに矛盾したことはない。

多くの要人が訪れる新首都の治安・警備の問題も全く議論されていない。一瞬たりとも空隙の期間をつくってはならない治安・警備を国はどう考えているのか。130年の伝統を持つ警視庁に匹敵する組織はすぐにはつくれないのである。

加えて、皇居を動かすわけにはいかないではないか。皇居の警衛という重要な問題についての議論が抜け落ちている。

3 移転より危機管理体制強化を

今必要なのは危機管理体制の強化だ。官邸や警察消防、防衛庁などの指揮中枢のバックアップ施設を、近県の例えば地盤の良い埼玉県に建設し、緊急事態に備える必要がある。

更に、我が国では総理大臣の指揮継承者すらあいまいだが、こうしたソフト面での危機管理の整備も大切だ。これで、ようやく非常事態での初動体制が確立されるのである。

そして、このような危機管理体制を創りあげれば、首都を移転する必要など全くなくなる。20年前の危機管理の趣旨にそって首都移転は撤回すべき時期にきている。

シリーズ

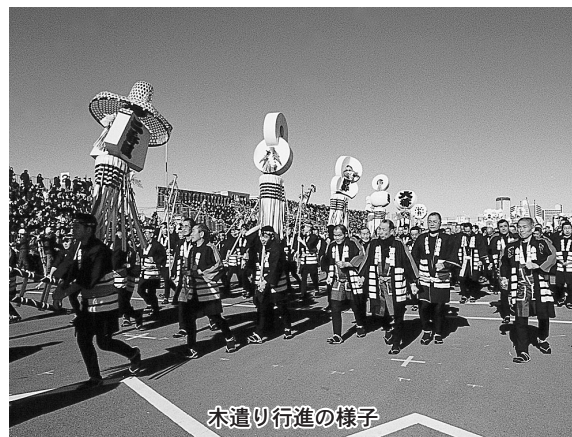
会員訪問記

(社) 江戸消防記念会

～江戸町火消の伝統を今に伝える～

(社) 江戸消防記念会は、江戸の町火消文化の伝承のため、昭和14年に旧市部消防組有志の方々により結成されました。

江戸時代の消防は、今から270年余り前の徳川吉宗の時代までは、武家を対象とした大名火消があるのみでした。しかし、ひとたび町方から火事が起きれば、武家屋敷まで延焼の危険が及び、「消防に国境なし」という一蓮托生の運命にありました。



木遣り行進の様子

こうした状況を憂えた時の町奉行大岡越前守は、「江戸の町は江戸庶民の手で護らせる」という、いわゆる自衛・自治の考えに根ざした「いろは48組」の町火消制度を創設しました。町火消には、勇気・機敏・技術に秀でた^{とび}鳶が中心に選ばれ、義勇消防の担い手として身を犠牲にして幾多の猛火と戦いながら、「江戸の華」として庶民に親しまれてきました。

明治維新で町火消は市部消防組と名を改め、戦前まで火災警防の第一線を担い、東京の町を守り抜いてきたのです。

同会では、こうした伝統を受け継ぎ、江戸消防の調査研究や防火防災思想の普及啓発のほか、毎年1月の東京消防出初式、ふるさと東京祭や海外における各種のフェスティバルにも参加しているそうです。

シリーズでお伝えしている会員訪問記。
今回は、江戸町火消の伝統を受け継ぐ(社) 江戸消防記念会を訪問しました！

現在、会員数は正会員432名、準会員600名で、都内23区を11の地区に地域割にした「区」を設け、この下に番組と称する88の「組」を組織しています。各組は独自の^{まとい}纏を保有しており、その纏をシンボルとして組織的な活動を行っているとのこと。

江戸町火消の伝統を受け継ぐ「江戸消防記念会」。今回は、新春1月6日に行われた東京消防出初式での木遣り行進とはしご乗り演技の模様取材させていただきました。



はしご乗り演技

会場となった江東区有明の多目的広場には、初春にふさわしい青空のもと、多数の見物客が訪れていました。

東京消防庁の部隊検閲などに引き続いて行われた木遣り行進とはしご乗り演技では、江戸町文化の伝統と勇壮な演技に、観客から盛んな拍手と歓声が送られていました。

〔編集後記〕

江戸の伝統と心意気を大切に今に伝える江戸消防記念会。そんな会だからこそ「首都移転は江戸文化を踏みにじるもの。絶対反対です。」とのお言葉にも力がこもっておりました。

また最後に、「火災予防には一人ひとりの心がけが最も大切です。季節柄、火の用心にご協力ください。」と話されていました。(I)